はにわ祭の裏側 ―伝統継承の軌跡―

①

②

③

④

⑤

①衣装の状態をチェックする
②駐車場のラインを正確に計測
③先輩職員による化粧の実演
④細部まで動きをそろえて
⑤竹の長さを調整する様子

祭を支える裏方の奮闘記

台風や新型コロナウイルスの影響により4年ぶりの開催となった「第37回芝山はにわ祭」。その舞台の裏側には、さまざまな奮闘がありました。

約半数が未経験

祭を彩る古代人の化粧

はにわ祭に欠かせない存在の「古代人」。限られた時間の中で正確かつ手際よく化粧をするため、古代人化粧講座が実施されました。今回が初めての参加となった若手職員は、メモや動画で化粧のポイントを学びました。

四神旗に使用する竹は切るところから全て手作業

四神旗に使用する竹の準備は全ての工程を手作業で行っています。この作業を担当した職員は、切り倒し枝を切った竹を三重塔まで運び、4本の太さと高さが均等になるよう調整するなど、額に汗を流しながら準備しました。

長年受け継ぐ大事な衣装

丹精込めてきれいに修繕

経年劣化による傷みや汚れが生じていた、古代人の衣装。ほつれている部分を縫い直したり、乱れているかつらを丁寧に整えるなど、全61着の衣装をきれいに仕上げました。この繊細な作業は、祭前日の夕方まで続きました。

当日を想定した事前準備で会場付近の混乱を防ぐ

駐車場の混雑により儀式が見られない方が出たり、周辺の道路状況に影響を及ぼすことのないよう、駐車場内のライン引きや通行止め看板の設置を行いました。

町インスタグラムでは、準備の様子を動画で公開しています。
ぜひご覧ください！

Pick up

踊りを通してつないだ伝統 ―心を一つに挑んだ4年ぶりの巫女の舞―

▲「芝山でしかできない経験は一生の思い出」と話す舞巫女たち

祭の約1カ月前から始まった舞巫女の練習。限られた時間の中で少しでも多くの技術を覚えようと励む子どもたちと、細部まで丁寧に教える指導者の皆さんの姿から「踊りを通して伝統をつなぐ」意志が感じられました。

無事に本番を終え「楽しくて気付いたら終わってしまった」と話す子どもたちは凛として美しく、指導者の皆さんも「練習以上に素晴らしかった」と安心した笑顔を見せました。

▲思いを込めて指導してくれた指導者の皆さん

▲子ども古代人への説明会の様子。祭の歴史や意義について説明する稲垣さん（写真左）

▲はにわ祭実行委員会の様子。準備から運営まで長年の経験を生かして祭を成功に導いた（写真右）

４年ぶりのはにわ祭を終えて

台風や新型コロナウイルスの影響で３年続けて中止となっていた、当町最大の祭である「芝山はにわ祭」。今年も中止したら1982年から長く続いてきたこの祭自体の存在感が薄れてしまうのではないかと危惧していました。

依然として新型コロナウイルスのリスクがあったものの、先人たちの想いを考慮し「伝統を継承する」という意図で、儀式のみの開催となりました。古代人役の小中学生がなかなか集まらないという苦労もありましたが、多方面のボランティアにも協力を仰いで、開催に漕ぎ着けることができました。

そして迎えた当日、今にも泣き出しそうな雲行きでしたが、各儀式中は一滴の雨にも降られず無事に終えることができました。まさに、天空の神々様がはにわ祭を見守ってくれたものだと思います。

はにわ祭は、物質文明が豊かになっても自然への感謝や畏敬の念を抱き、人間同士の心のつながりの大切さを忘れてはならないと古代人から現代人に語りかけています。今後も、この精神を伝承しながら盛大な祭が開催できることを願って止みません。

先人たちの想いをつなぐために

３人とも今年度の人事異動で産業振興係となり、はにわ祭の運営は未経験でした。開催が決まったときは不安な気持ちがありましたが、祭の歴史や意義などを調べるうちに、先人たちの想いでつないできた地域の大事な行事であることを実感しました。そして「伝統継承しなければならない」と強く感じました。

準備では、さまざまな作業の段取りや物品の確認などを行いましたが、特に頭を悩ませたのは情報発信です。「儀式のみの縮小開催であるため産業祭などは行わない」ことを正確にお知らせする方法について、他部署とも話し合いを重ねました。

当日は、どのような心境だったか覚えてないくらい必死でした。しかし、今まで練習を見届けてきた舞巫女や各場所で業務にあたる他の職員など、随所で目に入る皆さんの頑張っている姿に感化され、最後までやり遂げることができました。

来年のはにわ祭は、より多くの方々に来ていただけるよう、今回の経験と反省を生かして準備や運営に取り組んでいきたいです。

▲看板の設置作業の様子。開催が決まった９月から多岐にわたる業務に取り組んだ（写真左）

▲古代人の衣装を修繕する様子。歴代担当職員のアドバイスを受けながら準備にあたった（写真右）